

## 「アートインホスピタル」

6月9日(月)14時より講演会を開催いたしました。「アートインホスピタル」とは、ユネスコを主体とし北欧から広がった活動です。病院をアートで飾るだけではなく、「病院は人間にとって最も美しく優しい場所であってはならない」という理念のもと、アートをもって癒しを与える、医療に一步踏み込んだセラピーとしての要素を持つ活動です。

講師のアナグリウスケイ子先生が学んだスウェーデンでは、病院建築費の3%(現在は1%)をアートに当てるのが義務付けられているほど、ア



ステンドグラス風に天井に描いた絵

ートが持つ癒しの力は注目されています。といっても大きなオブジェを置いたり、華やかに飾ったりするだけではありません。先生がアートを行う亀田総合病院では、近くに海があることを利用し、そこからとってきた石に絵を描いて院庭に並べたり、近づいたり触ったり五感に訴えるアートを実践。ここにそっと寄り添うアートを「道具」と捉え、活動を続けておられます。

当院でも学ばべきものの多い今回の講演を活かし、癒しの環境づくりに努めていきたいと考えています。



石に描いたアート

### 基本方針

**人** 権を重んじ、患者さんやご家族の「心のふるさと」になれるよう、患者さんの立場に立ったやさしい医療をおこないます。

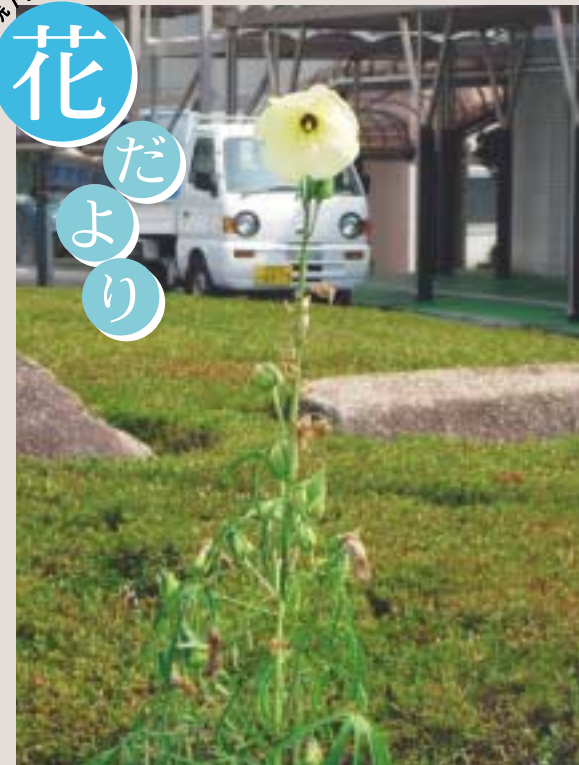
**最** 新の医療知識と技術を身につけ、予防から急性期治療・リハビリテーション・在宅支援まで継続的な質の高い医療を提供します。

**光** 「と風と緑」にあふれた、安全で快適な療養環境を提供します。

**地** 地域の拠点病院として、行政機関や病医院・地域の方々と連携し、保健・医療・福祉に貢献します。

**信** 頼られる医療サービスを提供するために、経営の健全化につとめ、すぐれた医療従事者を育てます。

院内  
花  
だ  
よ  
り



# 光風緑

院内の花が一段と美しく咲き競う季節です。  
美しい花の季節をお楽しみください。

## とろろあおい 黄蜀葵

アオイ科 別名ケナフ。

ホワイイトハイビスカスともいわれる。

とろろと名前がつくだけに根の部分が粘っこく、この根が和紙に使う糊によく使われています。晩夏に咲く黄色い大型の花で、院内には1箇所、正面花壇に1本だけ背を伸ばして咲いています。お昼には大輪の花を咲かせていますが、夕方前にはしぼんでしまいますので、見逃さないください。

### 外来診察表

外来診察時間 / 9:00 ~ 12:00(受付は11:30まで)

	月	火	水	木	金	土	
診察	2 診	黒田	中井		横田	黒田	横田
	3 診	松島	野村	松島	野村	横井	横井
	5 診	西側	梶本	植田	梶本	西側	植田
	6 診	西村	山田	西村	三秋	相馬	
	7 診	白濱	清水	吉田	中井	清水	
睡眠外来	黒田	黒田・野村	野村	野村	黒田	黒田	
小児精神科外来	横田	横田		横田	横田	横田	
専門外来	往診相談外来	女性外来	口腔心身症外来	物忘れ外来			

専門外来(睡眠・小児・往診・女性・物忘れ・口腔)は予約制です  
医療機関からの入院・転院のご相談は  
地域医療連携室で承ります。

電話072-278-0381 電話072-281-6615



### 診療科目

精神科 心療内科 内科

### 病床数

精神科救急入院病棟50床(C1病棟)  
精神科急性期治療病棟109床(B1,E1病棟)  
亜急性期病棟120床(B2,C2病棟)  
メンタルケア病棟51床(E3病棟)  
リハビリ病棟60床(E2病棟)  
老年期精神疾患病棟120床(D1,D2病棟)  
合併症病棟60床(D3病棟)  
精神療養病棟120床(F2,F3病棟) 計690床

### 看護体制

精神科病棟 15:1 急性期病棟 13:1 スーパー救急 10:1  
看護師比率70%以上・看護補助 10:1

### 関連施設紹介

訪問看護ステーションふれあい  
居宅介護支援事業所  
ヘルパーステーションはんず  
ケアホーム/こもれび・青空・つばさ・そよかぜ  
堺市中区八田南之町277 阪南病院内 電話072-278-0381  
ケアホームあんずの郷  
堺市中区八田北町309 電話072-278-2233  
地域生活支援センターゆい  
堺市中区深井東町3134 電話072-277-9555





8/1より急性期治療病棟がOPENします



病棟配置は上の病棟配置図をご覧ください。各棟はアルファベット表示され、B棟の1Fであれば、B1病棟と呼んでいます。

これまで、急性期病棟として機能しておりました当院B1病棟が8/1より急性期治療病棟として稼動することとなりました。月平均50件の休日・時間外の入院に対応すべく、救急、急性期に特化した体制で医療を行っており、また、さらに地域の要請に応えるために、急性期治療病棟を1単位増やす形と致しました。

院内では、B1病棟がその機能を担います。これで当院の救急・急性期病棟は、精神科救急入院病棟50床(C1)急性期治療病棟109床(B1・E1病棟)という体制で医療の実践を行います。院内にも少し手を入れ、B1病棟に救急車が入りやすいように、芝生を車寄せにする工事を、スムーズな搬送路を確保しております。

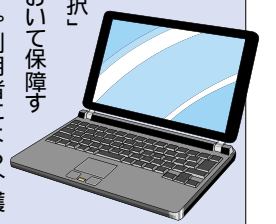
但し、工事のため、光・風・緑の環境を大切にしている当院の芝生や花壇を一部撤去しています。尚、B1病棟は急性期治療病棟に移行するため半床が個室の病棟に内装工事をいたしました。

20年度

介護サービス情報のお知らせ

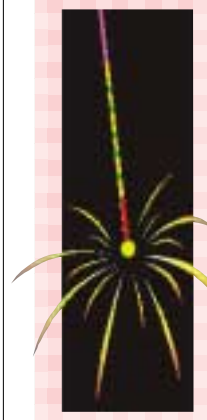
大阪府介護サービス情報公表センター(財団) 法人大阪府地域福祉推進財団)が主催する「介護サービス情報公表システム」に当院の関連事業である「居宅介護支援事業所」「訪問看護ステーションふれあい」「ヘルパーステーションはんず」の基本情報が公開されています。

このサイトの基本的な考え方は、介護保険制度の基本理念である「利用者本位」「高齢者の自立支援」「利用者による選択」を現実のサービス利用において保障するための新しい仕組みです。利用者による介護サービス事業所の選択を支援することを目的として、都道府県内の事業所の比較検討が可能となるよう、介護サービスの種類ごとに共通の項目の情報が定期的に公表されています。外来待合に詳細冊子を設置していますのでご覧ください。



URL <http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp/>

阪南夏祭りのお知らせ



8月22日(金)18:00~ E棟前広場

夏の大イベント夏祭り! 午前中から模擬店が並びます。夕方の盆踊りには地域の方もお越しになって盛り上がります。

エコキャンペーン実施中!

当院では、「快適職場宣言」と銘打ってエアコン25 での使用を働きかけています。院内全エアコンのスイッチ付近にステッカーを張り、啓発活動を行っています。

地球環境に配慮した対策は重要で当院でも積極的に取り組んでおります。

労働安全対策委員会



おくすり教室

お薬の飲み方と注意点⑦



何年前にももらった薬があるのですが、飲んでもいいですか?

市販の薬は、製造してから3年程度は保存できるような安定性の高い成分を使用して作られています。でも、使用期限というのは、未開封で、かつ保存状態がいい場合のこと。市販薬でも1年以上たっていたら思い切って捨ててしまおう方が安全です。

さて、病院でもらったくすりは、どうしてしょつか?

病院でもらったくすりが残った場合、捨ててしまふのはちょっともったいない気がするかもしれませんが、でも病院の処方薬は、市販薬のように長期の保存を考へて作られていません。効き目が強い分、古くなって変質したときの副作用にも問題があります。また、なにより病院でもらったくすりは、そのときの症状に合わせて処方されているもので、以前にもらったくすりを服用するのではなく、受診して、今の症状にあったくすりを処方してもらって服用するようにしてください。

症状がなくなつて、よくなった! と感じたら、くすりを飲むのをやめてもいいの?



病院で処方されたくすりを服用している場合、たとえ症状が軽くなって、よくなったと感じても、勝手にくすりを飲むのをやめるのはよくありません。

急に「くすり」をやめると、リバウンド現象といつて、反動からかえつて症状が悪化し、危険なことがあるからです。医師は、リバウンド現象を防ぐため、患者の症状が一次的によくなつても、くすりの量を減らしたり、弱い「くすり」に替へながら、段階的にやめる方法をとりまふ。

自分勝手にくすりをやめることは、こうした治療のさまたげとなり、自分の病気を、自分で悪くすることにもなるのです。



くすりは、指示通りに、正しく飲み続けることが、治療の上で一番大切なことなのです。

児童福祉施設の子ども100人をユニバーサルスタジアムイベントで応援しよう!

URL <http://charity4children.seesaa.net/>

多くの大人に支えられていることを実感してちょう!

児童福祉施設の子どもを100人招待指定、一生に一度の思い出を作ってもらおう!

児童福祉施設の子どもを100人招待指定、一生に一度の思い出を作ってもらおう!

現在、大阪府では、改革のために、予算配分の見直しが行われており、児童福祉領域でも、予算の削減が行われつつあります。児童相談所(子ども家庭センター)や児童福祉施設の職員は、必要性を訴えつづけ、かろうじて削減を食い止めております。また、低予算のなかでやりくりしていますが、今後明るい見通しがないために、子どもの将来に明るさを感じることができず、閉塞感を強く感じているのが実情です。

この強い閉塞感を、吹き飛ばすことはできないかと考えました。それが、今回のチャリティーイベントです。多くの方の協力が是非とも必要です。その強い協力した力を子どもへ伝えることが一番の趣旨です。 精神科医 下記サイトにて、募金を始め、さまざまな協力を求めていますので、ご協力のほどよろしくお願ひします。 松島 章晃

e-mail [charity\\_4\\_child@yahoo.co.jp](mailto:charity_4_child@yahoo.co.jp) URL <http://charity4children.seesaa.net/>